

コースNo.46 倭国の重要拠点(KEYの山) 基山の歴史と新名物を訪ね

コース作成 井上

距離	約5.3キロ(JR利用で5.8キロ)	アップダウンがあります
起点	① 基山総合運動公園第3駐車場(WC)	♂♀
コース経路	② けやき台の住宅街	
	③ エミュー飼育研究所	
	④ 高速道路基山パーキング	♂♀
	⑤ きやまオリーブの会の観光農園	
	⑥ 水門跡 今は水門跡から先は行けないようになっています。	
	⑦ 丸林集落センター	
	⑧ ハム工房「花てぼ」(17号線の少し手前)	♂♀
	⑨ 瀧光徳寺開祖である「覚患上人修行の地」の石碑	
	⑩ ゴール	

エミュー飼育研究所 現在基山町全体で飼育されているのは年間500頭だそうです。

基肄城の水門跡 水門は城の南側にあり、城内からの谷の水を排水する施設で、その規模は高さ1.4m、幅1m、奥行き9.5mを測り、国内の朝鮮式山城の中では最も大きな水門といわれています。その上に築かれている石垣は高さ8.5m、長さ26mを測ります。
現在は保存修復のため工事がおこなわれています。

ハム工房「花てぼ」 鳥栖筑紫野道路、城戸インターチェンジからすぐのところであり、新鮮な豚肉と良質な基山の地下水を使用してハムやウインナーが手作りされています。
塩分控えめ。健康的な美味しさが評判です。
火曜日はお休みです。

瀧光徳寺開祖
覚患上人修行の地



基山の名称由来

明治44年1月、平戸から郷里基山に帰った上人は、赤貧の中、み仏より世俗の仕事につくことも許されず苦行難行にあげくれた。
5月、苦楽を共にした妻子を失い、9月ついに破綻をきたし、菖蒲坂のため池で三人の子と共に心中を試みた。しかし、み仏より許されず諭されて向仏一心決定した。

山名の由来するところは、霧の転訛説(肥前風土記) 椽城(きのき・日本書紀)による城山説、「国造本紀」の「松津」を「杵肆」の誤りとする杵山説のほか、五十猛命植樹の故事による木山説あるいは肥前国の鬼門説などがある。《佐賀県の地名・平凡社より》
いずれにしても、古より重要な役割の地であったと推定される。

